

ブラジル研修の様子【帰国式】

11月17日（金）18：20ドバイより帰国

予定より1時間半遅れの到着となりましたが、ブラジル研修団が無事、関空に戻ってきました。保護者をはじめ、たくさんの県関係の方々に迎えられて、元気よく到着ロビーに姿を見せてくれました。たった2週間でしたが、さまざまな経験のおかげか、しっかりとした顔つきで「ただいま」と笑顔で応えてくれました。帰国式では、副リーダーの富田君（農大生）がポルトガル語で感謝の気持ちを述べ、大きな拍手をもらいました。みんな疲れている様子も見せず、保護者の方と家路につきました。次回は、1月12日に解団式が本校で行われます。そこで発表される研修団の報告を楽しみにしています。



ブラジル研修の様子【13・14日目】

11月16日（木）～11月17日（金） 研修第13日目、14日目

11月16日（木）現地時間1:15 サンパウロ グアルーリョス国際空港出発（サンパウロ⇒ドバイ 飛行所要時間 約13時間50分）16日サンパウロの気温は32℃。帰国時の日本は、寒くなる予報と聞いています。16日に12日間のブラジルでの研修プログラムを無事に終わりました。体調を崩さないように、日本に向けて出発です。平成29年度のブラジル研修の大きな目的として、（1）大規模なブラジル農業を体感する（2）開拓者精神を学ぶの2点が挙げられます。約2週間、現地農場見学、農業関連施設、企業見学、現地農業高校での実習と交流、日系人家庭でのホームステイ等の研修を通して、研修生たちの成長と同時に、この2点について多くの事を学ぶことができました。研修生たちも日本への帰国を前に、もっとブラジルで研修したかったと残念そうに話していました。現地時間21:15 ドバイ国際空港到着。研修日誌のまとめやドバイ国際空港見学の後、11月17日（金）現地時間3:05 ドバイ国際空港を出発します（ドバイ⇒関空 飛行所要時間 約8時間50分）11月17日（金）日本時間16:55 関西国際空港到着予定です。研修生全員元気です。



サンパウロ グアルーリョス国際空港到着↑



ドバイ国際空港に向けて出発↑



ドバイ国際空港到着①↑



ドバイ国際空港到着②↑

ブラジル研修の様子【12日目】

11月15日（水） 研修第12日目

7:45 各ホームステイ先よりニッケイパレスホテル集合。ホストファミリーとも今日でお別れです。2日間という短い間でしたがサンパウロでたくさんの思い出を作ることができました。ありがとうございました9:40VinicolaMicheletto（ブドウ農園）に到着。4haというブラジルでは、小規模な生産農家です。18品種のブドウを研究機関と連携して試験栽培の取り組んでいました。また、生産されたブドウをワインやジュースなどに加工して販売までを実現していました。研修生は、ブドウの栽培方法や今後の目標などについて質問していました。生産者は、「大規模化はせずに地域で必要とされる量を生産して提供していきたい」と研修生に伝えていました。ブドウジュースの試飲もさせていただき、研修生たちもできたばかりの新鮮なジュースをじっくりと味わっていました。

13:30 昼食後、Fazenda Luiz Gonzaga(桃、ライチ、ドラゴンフルーツなどの農園)を見学。先ほどの農園とは異なり、160haに数種類の果樹栽培を行っていました。気温は約32℃。研修生たちも少し疲れていましたが、最後まで頑張ることができました。

15:00 独立記念像とパウリスタ博物館の見学です。研修団のブラジルでの最後の記念写真の撮影となりました。17:45 サンパウロ郊外の大型スーパーにて小売調査（買い物）です。現地ガイドから商品の説明を受け、約1時間の自由時間となりました。20:00 サンパウロ グアルーリョス国際空港到着。チェックインを済ませた後、空港内で軽食。現地16日（木）1:15にドバイを目指して空港を出発します。（EK-262）研修生全員元気です。



Fazenda Luiz Gonzagaにて昼食↑



パウリスタ博物館にて記念写真↑



ブドウ農園にて記念写真↑



ブドウ農園見学↑



ライチ農園見学↑



ワイン醸造工房見学①↑



ワイン醸造工房見学②↑

ブラジル研修の様子【11日目】

11月14日（火） 研修第11日目

6:45 各ホームステイ先よりニッケイパレスホテルに集合。7:15 サンパウロ大学農業学部に向けてバスで出発し、約2時間かけて大学に到着しました。サンパウロ大学の概要説明を受けた後、各研究室を見学させていただきました。ビール酵母や薬用植物の研究について教えていただきました。見学終了後、大学内の食堂にて昼食。13:30 現地学生より持続可能農業プロジェクトについて説明がありました。ジャガイモの連作障害を防止するために、深耕した部分に有機物を投入することによって9年間ほぼ同じ生産量を維持できているそうです。栽培を専攻している研修生は自分にとっても身近な課題であり、興味深く聞いていました。13:50 ブラジルの農業についても説明していただきました。機械化が進み大規模生産により生産量も増えているが、生産した作物をどのようにして輸送していくかが1つの大きな問題点であると指摘されていました。研修生たちは、ブラジルのトウモロコシと大豆栽培について質問をしていました。14:15 農場見学のためバスで移動。1ha当たり5万本が作付けされているトウモロコシの姿を見学しました。最後に、乳牛を飼育している現場を見学しました。日本と同じホルスタイン種を飼育していましたが、ブラジルの気候に合わず牧草で飼育するため、乳量は多くありませんでした。見学時、獣医師によって削蹄作業を行っていました。また、ブラジルの畜産業について分かりやすく説明していただき、研修生は削蹄技術や牧草の栽培方法について質問をしていました。今日一日、非常に暑い中、大学先生方、学生さんたちに大変お世話になりました。ありがとうございました。研修生たちも一日よく頑張りました。明日でホームステイ、研修が最終日となります。



サンパウロ大学にて↑



サンパウロ大学にて②↑



サンパウロ大学農学部にて↑



ビール酵母研究室見学↑



ブラジルの畜産業について↑



ブラジルの農業の説明について↑



大学の食堂にて↑



薬用植物研究室農園見学↑

ブラジル研修の様子【10日目】

11月13日（月） 研修第10日目

6:30 起床、7:30 朝食、今日はイグアスの滝（ブラジル側）の見学です。途中、土産物店と併設されている野鳥園に寄って少し買い物をしました。買いたい品物があれば、店員が番号と金額を記入してから清算をします。清算後に品物を受け取るシステムです。野鳥園では、ポルトガル語でトゥカーノと呼ばれるオニオオハシを見ることができました。目的地にバスが到着すると徒歩で移動。アルゼンチン側からは、陸路からの国境越えを体験でき、ブラジル側からは、滝の全景を見渡せます。研修生たちは、滝の美しさにしばらく見とれていました。見学終了後は、バスでフォス・ド・イグアス空港まで移動。空港レストランで昼食後、13:35 サンパウロへと向けて出発しました。15:20 サンパウロ・グアルーリョス国際空港到着。サンパウロ兵庫県人会の方々のお出迎えがありました。宿泊先への移動途中にイビラプエラ公園内にある先没者慰霊碑の参拝を行いました。同じ公園内にあるブラジル日本移民館にも立ち寄り、現地ガイドから記録書類や物品などを見ながら移民の歴史や当時の生活について説明していただきました。19:30 サンパウロ兵庫県人会の方々との懇親会です。小舟団長挨拶の後、研修生が一人ずつ研修の感想や自己紹介をして、今日からホームステイでお世話になるホストファミリーとプレゼント交換をしました。良い思い出をたくさん作ってほしいと思います。懇親会終了後、各ホームステイ先へと帰宅しました。研修生全員、昨日の疲れも見せずにしっかり研修に取り組んでいます。



イグアスの滝（ブラジル側）①↑



イグアスの滝（ブラジル側）見学②↑



ブラジル日本移民史料館見学↑



先没者慰霊碑参拝↑

ブラジル研修の様子【9日目】

11月12日（日） 研修第9日目

7:15 マリンガ文化体育協会に各ホームステイ先より集合。今日でホストファミリーともお別れです。各ホストファミリーで記念写真を撮影しました。撮影後、研修団を代表して小舟団長よりホストファミリーの方々へ挨拶がありました。4日間という短い間でしたが本当にお世話になりました。

7:30 マリンガを出発。目的地までの途中で広大な大豆畑の前で記念写真。その後、陸路で国境を越えました。13:00 世界遺産であるイグアスの滝（アルゼンチン側）に到着しました。滝までは徒歩でトロッコ列車で移動です。列車が到着後は、遊歩道を大小様々な滝を眺め写真を撮りながら、チャレンジボートがある場所まで歩きました。研修生全員チャレンジボートに乗り、イグアスの滝に向けて動きます。滝の近くまでくると、ボートは横に向きをかえて進んでいきます。この瞬間、全身が水でずぶ濡れになりましたが、研修生たちは大きな声を出して喜んでいました。次に、三国国境（ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ）を見学しました。長時間のバスの移動やイグアスの滝までの遊歩道を歩き、よく体を動かした1日となりました。明日は、イグアスの滝（ブラジル側）の見学とサンパウロへの移動、夕方から兵庫県人会との懇親会を予定しています。研修生全員元気です。



イグアスの滝↑



トロッコ列車で移動↑



ホストファミリーとの記念写真①↑



ホストファミリーとの記念写真②↑



ホストファミリーとの記念写真③↑



広大な大豆畑の前で↑



三国国境見学↑

ブラジル研修の様子【8日目】

11月11日（土） 研修第8日目

午前中は、各ホームステイ先でショッピングやボートに乗るなどしてホストファミリーと過ごしました。14:00 マリンガ文化体育協会の若者たち（リーダー会）との交流・意見交換会が行われました。交流会では、ラジオ体操やダンスをするなどして交流を深めました。意見交換会では、グループに分かれてお互いの国の話や質問をしました。ホームステイ先や今日までの研修の中でたくさんの人たちとコミュニケーションを図ることで、挨拶も上手にできるようになってきました。交流会の最後には、研修生からリーダー会全員に日本の折り紙や文房具をプレゼントしました。休憩後、20:00 マリンガ文化体育協会主催のイベントに参加しました。日本語学校の生徒による和太鼓や日本各地の踊りを披露していただきました。また、ファッションショーも開催され、会場は大いに盛り上がりました。研修生たちは、各ホストファミリーとテーブルを囲んで、楽しく会話をしながら食事をしていました。マリンガ市のホームステイは、明日の朝までとなります。悔いの残らないように過ごしてほしいと思います。食事終了後、各ホストファミリーと帰宅しました。



マリンガ日本語学校園児による演技↑



リーダー会との意見交換会①↑



リーダー会との意見交換会↑



リーダー会との交流会↑

ブラジル研修の様子【7日目】

11月10日（金）

各ホームステイ先より、8:30 カトリック中央教会前に集合。教会内を少し見学し、マリンガ市役所に向けて徒歩で移動。9:00 マリンガ市役所表 敬訪問。副市長より「70年前日本人が来なければこのマリンガ市は発展することはなかった。今後も交流を大切にしたい」とのお言葉をいただきました。また、マリンガ市の概要説明を受けた後、研修生一人ひとりから質問をさせていただきました。市の農業や環境問題について質問すると詳しく説明していただきました。農業分野では、オーガニック野菜の栽培から販売に力を入れていきたいということでした。最後は全員で記念撮影となりました。10:30 コカマール（ブラジルの農業組合の加工・流通施設）の見学を行いました。コカマールとしての役割や事業内容について説明を受けました。現在、ブラジル内で最も生産されている大豆を利用した加工品を製造する施設見学もさせていただきました。大豆を利用した、様々な種類のジュースを試飲しました。商品の一部は日本にも輸出されているそうです。12:00 コカマール社員食堂にて昼食となりました。13:00 マリアルバ市へ向けて移動。14:00 到着。日系人農場を2ヶ所見学しました。安中コーヒー農園では、ブラジルでは大規模でないもののコーヒー豆の栽培から加工・流通までを行っていました。3品種のコーヒー豆を生産し、機械化に適するように農園を改良していました。コーヒーが作られるまでの過程を見学することができました。次に、ブドウを生産されている大泉農園へと移動しました。移動途中には、大豆を生産している広大な農地を見ることができました。この農園でも、この土地の気候に適した3品種を栽培していました。最後の試食では、自分たちの学校で生産するブドウと比べた感想を述べている研修生がたくさんいました。日中はとても暑い中での研修でしたが、農園を出る頃には雨が降ってきました。18:00 ホストファミリーの出迎えがあり、各家庭へと戻りました。研修生全員、よく食べ元気に研修に参加しています。



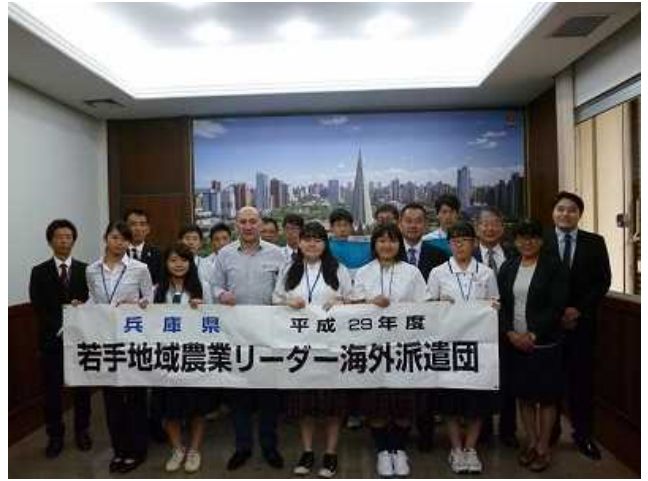
カトリック中央教会前↑



コカマール見学↑



ココマール事業内容説明↑



マリంగా市役所表敬訪問↑



安中コーヒー農園見学↑



安中農園見学②↑



大泉ブドウ農園見学↑



大泉ブドウ農園見学②↑

ブラジル研修の様子【6日目】

11月9日（木） 研修第6日目

7:15 各ホームステイ先のホストファミリーに送っていただき、マリンガ文化体育協会に集合。研修生の体調を確認後、本日の研修先であるアプカラーナ農業高校へ向けて出発しました。到着後、現地生徒による歓迎会があり、この地区に伝わる農家のダンスを披露していただきました。研修団の紹介では、研修生一人ひとりがポルトガル語で自己紹介をしました。次に、交流会が行われ、日本では、どのような教科があるのか？現在の季節は？何故ブラジル研修に参加したのか？などの現地生徒からの質問に、研修生で相談をしながら回答していました。ブラジルと大きく異なる点に先生方も含めて驚いた様子でした。次に、研修生代表者が学校で取り組んでいる研究活動について発表を行いました。発表後は、現地生徒から質問たくさんあり、日本の農業高校生が行う研究のレベルの高さに感心していました。午前のプログラムが終わり、食事休憩の後、30分程度、現地生徒と一緒にサッカーで汗を流していました。午後からは、2班に分かれて実習に取り組みました。栽培系班ではキャッサバの定植作業をしましたが、ブラジルの土の固さに苦労していました。飼育系班では、乳牛、豚、鶏、羊などの家畜の飼育方法について現地生徒から説明を受けながら、ブラジルの畜産について質問をしていました。実習後は、アプカラーナ農業高校の先生から生徒たちの研究内容についての説明を受け研修が終了しました。帰りは、日系人が経営するスーパーの見学を行い、農産物の種類や価格について教えていただきました。

18:30 マリンガに到着後、各ホームステイ先へと戻りました。曇りがちであった天気も今日は晴れて暑い1日となりましたが、研修生全員元気に研修に取り組みました。



アプカラーナ農業高校研修終了↑



研修生自己紹介↑



研修生代表プレゼン↑



羊の飼育↑

ブラジル研修の様子【5日目】

11月8日（水） 研修第5日目

5:30 起床、6:00 朝食は、パンや果物が中心ですが種類がたくさんあり、いつもどれにするか迷っている様子です。8:00 ホテル出発、JACTO 社までバスで移動。

JACTO 社は、世界三大農機具メーカーであり、特に薬剤噴霧機の生産で有名です。また、現在ブラジルで活躍している大型のコーヒー豆収穫機も7年かけて製作されたそうです。ネジなどの一部の製品を除いてほとんどの部品が自社製品であり、その製造工程を見学させていただきました。ほとんどの生徒が自ら手を挙げて質問できるようになり、積極的に研修に取り組む姿勢が見られるようになりました。休憩後、西村農工メモリアルホールへと移動。はじめに、JCTO 社の創設までを説明していただきました。その後、両翼で約34mある大型の薬剤噴霧機を実際に操作するなど、日本では絶対にできない経験をさせていただきました。「農業が止まると、世界が止まる」という JCTO 社の創設者である西村俊次先生の言葉に、研修生たちは、何を感じたのでしょうか。午後からは、肉牛生産の牧場見学です。約15,000を肥育していますが、子牛を預かり出荷まで肥育する日本ではあまり見られないシステムを導入しており、集約的な日本の飼育方法とも大きく異なっていました。本日からホームステイが始まります。

18:30 各家庭との対面式後、マリンガ文化体育協会の歓迎会に出席しました。スタンプも大変盛り上がり、研修生たちも笑顔で一日を終えることができました。全員元気に研修に取り組んでいます。



JACTO社見学↑



マリンガ文化体育協会歓迎会↑



西村農工メモリアルホール見学↑



肉牛農家見学↑

ブラジル研修の様子【4日目】

11月7日（火） 研修第4日目

5:30 起床、ブラジルの食事にも慣れてきた様子です。研修生は、自分で食べる量を調整しながら各自で体調管理もできています。

7:15 ホテル出発。予定より少し早くセアーザ市場に到着しました。クリチーバ郊外にある野菜や果物、花の流通市場の見学です。パラナ州で生産された農産物の約60%が集まる市場です。販売業者が直接買い付けに来る市場であり、流通内で規格外の野菜などは各施設に無償で提供する日本にはないシステムを導入しています。早朝の市場はとても活気づいていました。11:10 ハリマ化成パラナ工場到着。兵庫県からブラジルをはじめ、アルゼンチン、中国、ニュージーランドに拠点をもち、「松やに」からロジンなどを製造している企業です。製造工程の概要を学習後、実際の製造現場の見学を行いました。12:30 クリチーバから159km離れたカストロでジャガイモや大豆、トウモロコシなどを栽培している農場見学です。大規模なブラジルの農業を体感し、農場の一部に新都市を設立する計画があり、日本では想像することのできない農業者の取り組みに研修生全員が驚いていました。その後、約4時間かけてマリリアへ移動。レストランで夕食（シュラスコ）となりました。研修生全員元気です。



カストロ山本農場見学↑



セアーザ市場見学↑



ハリマ化成見学↑



本日の夕食↑（シュラスコ）

ブラジル研修の様子【3日目】

11月6日（月）研修第3日目の様子です。

5:30 起床、全員揃って朝食です。8:00 ホテル出発、サンパウロコンゴニャス空港へ向けてバスで移動です。日本と同じように通勤ラッシュの渋滞です。1時間程で到着、最初の研修場所である山下椎茸農園までバスでの移動となりました。到着後、すぐに昼食となりましたが、日本で味わうことのできない肉や果物の味に驚いた様子でした。15haの農園で椎茸やマッシュルームなどを栽培し、しいたけコロッケを作るなど6次産業化を目指して取り組まれているところが印象的でした。次は、ブラジル兵庫県事務所、パラナ州農政局表敬訪問、兵庫県事務所の活動状況やパラナ州の農業についてご指導いただきました。大豆、ブロイラーなどの産業が盛んであり、ブラジル農産物の約1/4がパラナ州で生産されるそうです。最後に、日伯援護協会にて歓迎食事会に出席しました。現地大学生とお土産などの話をしながら交流を深め、それぞれのスタンプ披露となりました。交流会後半は、研修生と現地大学生と一緒にダンスで盛り上がりました。全員元気に研修に取り組んでいます。



現地大学生との交流会↑



山下農園の概要説明↑



ブラジル研修の様子【2日目】

11月5日（日） 研修第2日目

現地時間 5:55（日本時間 9:57）、ドバイ国際空港に無事到着しました。乗り継ぎの手荷物検査後、現地通貨「ディルハム」への両替方法を確認し、約2時間、ドバイ空港の見学及び自由行動となりました。現地時間 9:00、ドバイ空港からサンパウロに向けて出発しました。

（EK261 飛行所要時間 約 15 時間）

長時間のフライトとなるため、研修生は再度ポルトガル語の学習、日誌をまとめるなど機内での時間を過ごしていました。

現地時間 18:15 グアルーリョス国際空港到着。ブラジル兵庫県人会喜多山様、尾西様、兵庫県ブラジル事務所永田所長に出迎えていただき、本日の宿泊先であるニッケイパレスホテルまでバスでの移動となりました。長時間のフライトで少し疲れた表情の研修生もいますが、全員元気です。明日から本格的にブラジルでの研修が始まります。有意義な研修となるよう、研修団の研修テーマである「無我夢中」になって取り組みたいと思います。



ブラジル研修の様子【1日目】

11月4日（土）研修第1日目

3回の事前研修を終えて、いよいよ平成29年度兵庫県若手地域農業リーダー育成研修が始まりました。20:00より、出発式が行われ、小舟団長からは、「研修生一人ひとりがブラジルで目標を達成させ、大きく成長して全員無事に帰国します」と挨拶されました。また、研修生代表からは、「事前研修を活かし、ブラジルの農業についてしっかりと学んでいきます」と力強く述べていました。

23:35 乗継地であるドバイへ 向けて出発しました。研修生全員元気です。

(EK317 飛行所要時間 約11時間)



平成29年度若手地域農業リーダー育成研修事業(ブラジル研修)出発式

平成29年度若手地域農業リーダー育成研修事業(ブラジル研修)の出発式を11月4日(土)に関西国際空港で行いました。

実行委員長の挨拶や研修生リーダーの藪林さんの宣誓など、ブラジルでの農業を学ぶ意欲を強く感じる式でした。夜遅い出発にも関わらずたくさんの保護者の方や関係者の方が見送りに来ていただきました。研修生11名は乗り換え国のドバイに向けて元気に旅立ちました。

